

平成17年度 府立南八幡高等学校 学校経営計画（まとめ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>授業を大切に、生徒の能力を3年間で最大限に伸ばして、進路を保障する。そのために、知力・基礎・基本を徹底し、個性を伸ばすこと、知識・技能に加えて、学ぶ意欲や思考力・判断力を含めた、幅広い学力を育む活動を推進する。また、基本的な規範意識と倫理観、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性・社会性を育む活動を推進する。そして、実践を通して、教職員の資質向上に努めるとともに、学校の評価と公開の推進に努め、信頼される学校づくりを進める。</p>	<p>「共生」を基本コンセプトとし、タレント性を生かすこと、3つの必修科目の存続を確保し、府立高校の再編整備に際して、八幡市の2校と連携し、再編の方向性を示し、継承を図り、地域社会及び関係各域に期待される学校づくりを推進する必要がある。</p>	<p>学校改革を着実に進展させ、普通科及び専門学科の特色ある教育活動の充実を図り、生徒及び保護者に信頼され、中学生から選ばれる学校づくりを推進する。</p> <p>(1) 一つひとつの授業を大切にしている取り組みの徹底による、確かな学力の育成                  (2) 奉仕・体験活動や読書活動の充実による、豊かな人間性の涵養                  (3) 保護者・地域及び校種間の連携強化による、信頼される学校づくりの推進                  (4) 教職員相互の連携・協働体制の確立による、学校の教育力の向上                  (5) 教職員評価の実施に基づく、授業改善を核とした教職員の資質能力の向上                  (6) 生徒及び教職員の意識向上による、環境にやさしい学校づくりの推進</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
1 組織運営	1 効果的・効率的な業務体制を確立するとともに、目標による教育管理を計画的に進める。	1 マネージメントサイクルを導入し、業務プロセスの見直しと改善・効率化を図る。 2 教育環境の整備・充実により教育の活性化を促進する。 3 3R（Reduce、Reuse、Recycle）に努め環境にやさしい学校づくりをおこなう。 4 危機対応マニュアルの充実、計画的な危機対応訓練の実施により安全な学校づくりに努める。	B	1 学校評価の実施、教職員評価の試行の年であったが、ほぼ計画通りに実施することができた。今後、業務プロセスの効率化を図ることが課題。 2 教育環境の整備により、学校公開アンケートでの保護者の感想は良好であった。 3 年度末に広報誌を発行するにとどまらず、可燃ゴミ排出量は2702袋から2450袋へと252袋減少（2月までの比較）させることができた。学校全体の意識向上に一層の努力が必要。 4 危機対応訓練を実施する予定であったが、大雪のため実施できなかった。
2 学習指導 (研究研修) (家庭連携)	2 授業評価に基づく授業改善で、生徒の学力と教員の指導力を向上させる	5 生徒による自己評価と授業評価を実施し、「わかる授業」を創造する。 6 計画的に研究授業や教員研修を実施し、教科指導体制の充実と指導方法の改善を図る。 7 保護者等対象の公開授業を計画的に実施し、授業の実施状況について意見を聴取する。	C	5 「わかる授業」に関する生徒の評価は、上昇している。目標値に0.07%届かなかった。次年度は目標を上回りたい。 6 研究授業実施93.9%で、昨年度よりも実施率は上昇。研究授業で、指導の工夫等を相互研鑽できた。次年度は目標達成が課題。 7 保護者等からのアンケート結果も上昇している。次年度は、公開授業を6月・11月に実施予定。次年度は、アンケート結果をさらに良いものにしたい。
3 教育課程の編成と実施	3 創意ある教育活動を展開し、特色ある学校づく	8 小中高連携、高大連携及び地域連携を促進し、教育活動の拡大と深化を図る。	B	8 学校説明会・公開に延べ343名が参加し、「参加して良かった」との回答は普通科96%、

(地域連携)	りを通して教育の活性化を図り、「生きる力」の育成に努める。	9 介護交流体験及び商人体験を通して、実社会と繋がる啓発的経験をさせるとともに、研修旅行の体験発表会を実施し、共通理解とプレゼンテーション能力を高める。	B	B	<p>専門学科98%であり、本校の教育活動は概ね理解してもらえた。</p> <p>9 研修旅行プレゼンテーションでは、2年生だけでなく、1年生も参加して、各コースや学科の研修内容をより来年度は発展させる方向で実施できた。その後国際環境コースは八幡英語フェスティバルにおいて、英語で研修旅行プレゼンテーションを行った。</p> <p>10 読書量が増えた生徒の%は、次のとおり。1年=53.6%、2年=53.8%、3年=69.3% 次年度は、朝読書の実施方法を改善し、さらなる読書量増加生徒が増えるようにしたい。”</p> <p>11 来年度に向けて、部活動の加入率を上げるために、部紹介を充実させる。</p> <p>12 本年度は、各関係機関のボランティア活動に、延べ154名(2月現在)の生徒が参加した。</p>
(学習指導)		10 朝読書を計画的に実施するとともに、各コース及び学科の指定図書を整備により、図書室の利用促進を図る。	C		
(読書指導)	4 読書活動推進計画に基づき、読書習慣の定着を図る。	11 「部活動だより」及び部活動掲示板の活用により、活動内容の周知徹底に努めるとともに、部活動活性化基金を活用し、強化指定クラブの活動を積極的に援助する。	B		
(課外活動・特別活動)	5 部活動の活性化を図り課外活動を充実させて、ボランティア活動の推進に向けての組織等を整備し、生徒の参加を拡大することで、特別活動を充実させる。	12 ボランティアバンクやボランティア手帳をより充実するとともに関係行政機関等との連携を強化し生徒のボランティア参加への道筋を整備し、活動を評価する。	A		
4 生徒指導	6 朝の遅刻指導を徹底し基本的生活習慣の確立を図る。	13 遅刻指導の実施状況を学年・学級別に分析するとともに、遅刻の解消に向けた学年・学級・個別指導を徹底する。	C	C	13 学年と協力して個別指導を行ってきたが、1日平均の遅刻数は2学期と比較して増加している状況である。
5 進路指導	7 「フロンティアプログラム」を充実し、望ましい勤労観・職業観を育て進路希望の実現を図る。	14 各学年別の計画的な相談活動や啓発的な体験活動を重視し、目的意識を高める。	A	A	<p>14 各学年部の計画的な相談活動や啓発的な体験活動を重視するとともに、連携を密にとり、生徒の進路意識や目的意識を高めることができた。</p> <p>本年度の実績を踏まえての、更なる進路指導の充実が課題。</p> <p>15 日々の活動、情報交換等を通して、進路指導に係る校内体制を充実するとともに、家庭や関係機関との十分な連携を図ることができた。次年度に向けた進路指導(キャリア教育)の進め方が課題。</p>
(家庭連携)		15 進路指導に係る校内体制を充実するとともに、家庭や関係諸機関との十分な連携を図る。	A		
6 人権教育	8 「グローバル人権」を充実し、豊かな人権感覚と人権尊重の実践的態度を涵養する。	16 各学年別の体系的・計画的な人権学習を重視し、人権学習教材の開発を進める。	B	B	<p>16 人権感覚が高まったと認識している生徒の%は、次のとおり。1年=86.8%、2年=82.3%、3年=89.8% 年度当初の計画通り人権学習を実施できた。次年度も計画通り人権学習を実施したい。</p> <p>17 人権シアターの内容は、充実。会場の関係で来場者数が少なくなってしまった。次年度は、本年度よりも計画を前倒ししたい。</p>
(地域連携)		17 「人権シアター」を開催し、人権尊重の輪を広げると共に、地域社会に積極的に発信する。	C		
7 健康安全	9 PTAと連携して、子どもの「命と健康を守る」取り組みを総合的に推進する。	18 校内全面禁煙を視野に入れ、「健康増進だより」を定期的に発行し、教職員を含めた禁煙指導を計画的・継続的に進める。	C	B	<p>18 学年末の1年生対象アンケートでは、52.6%が「だより」の発行により意識が高まったと回答した。また、入学後に喫煙をやめたと6名が回答したことは一定の成果である。</p> <p>19 毎月1回の交通安全指導で、特に自転車運転マナーについての指導ができた。</p>
(生徒指導)		19 毎月1日を交通安全強化日とし、保護者との連携により「4ない運動」の計画的な啓発及び指導を行う。	B		

8 家庭・地域 社会との連携	10 広報活動を充実させて 学校に対する地域社会の 理解を深める。	20 「南八幡だより」の発行やHPの更新を毎月 おこない各々の活動内容を紹介するとともに、 広報資料を積極的にマスコミ等に提供し、新聞、 テレビ等を通じた情宣活動を強化する。	C	C	20 本校生徒の取組みを紹介している「南八幡 だより」は、保護者には各学期号を通知票と 発送し、積極的に紹介した。また、本校の活 動内容の広報資料をマスコミ等に提供し、本 年度は新聞記事で13件、地方テレビ放映で 1件が取り上げられた。HPに関しては1度 の更新を行ったのみにとどまった。 21 毎月第2土曜日に学校説明会を、10月末 に学校公開を開催。参加人員は通算275名 (目標は320名)であった。2学期だけで 各中学校に2度、重点中学には4度足を運び、 情報交換に努めた。説明会参加中学は25中 学にとどまり、目標とした参加人員に若干及 ばなかった。
		21 計画的に定期的な学校紹介をおこない中学生 に目的意識を持たせるとともに、定期的に関係 中学校訪問をおこない、中学校の進路担当者等 と、積極的な情報交換を進める。	C		

評価は、A（十分達成できた） B（達成できた） C（やや不十分であった） D（不十分であった） の4段階評価。

### 南八幡高校スクールマネジメントプラン21（10の重点目標と21の方策）